

全ての子どもが 笑顔になるために



岡崎北高等学校長
内田久美子 氏

教育随想

全ての子どもが笑顔で元気に学校や地域で活躍してくれることは社会全体の望みです。

私はこれまで、全日制、定時制、特別支援学校と様々な校種に勤務する機会があり、多様な生徒と接してきました。その中で絶えず感じてきたことは、経済的な問題と家庭での子どもの居場所の問題が「子どもの学び」に大きな影響を与えるということでした。

国の施策や奨学金等で進学できる機会が増えるだけでは子どもが学び続けることは難しく、周りの大人がどう関わり支援していくかも大きな要因であると思います。

私の前任校は、定時制高校です。定時制は本来働きながら学ぶ学校です。経済的な理由だけでなく、働く経験は自分に自信のもてない生徒や人間関係が苦手な生徒が社会性を養うためにも重要な役割があります。しかし自由に使えるお金と共に今までとは違った人間関係が広がって行き、学校に気持ち



が向かなくなるときがあります。ましてや家に帰っても誰もいない、親は自分を気にかけてくれない、叱られてばかりという状況では、生活は乱れ、好ましくない人間関係へと発展させていきます。たとえ接する時間が短くても親から愛されていると感じられ、自分が好きだと思っている子どもは、自分も他人も大切にできるのだと思います。

学校の使命は、学ぶことは楽しいと実感できる教育活動を通して、学び続けることで自分の人生を変えていくことができることと教えること、将来は自立し社会のために貢献できる人材に育てていくことです。

岡崎市にある県立高校は、普通科、総合学科、工業科、商業科、家政系専門

学科と多様であり、それぞれの高校が特色ある教育活動を充実し展開しています。そして中学校の生徒や先生方を始め地域の皆さんにその内容や成果を伝えたいと常に考えています。岡崎市の小・中学校が大切に育ててきた生徒を高校が引き継ぎ、日本の発展を牽引できる人材を育てていく努力を続けていきたいと思っています。

全ての子どもが健やかな成長を願う、小・中学校と高校が連携し、家庭や地域、行政が力を合わせてそれぞれの役割を果たしながら教育活動を推進していくことがますます重要になっていくと思います。

(うちだ くみこ)



平成 27 年 8 月 1 日

8 月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
岡崎北高等学校長
内田久美子氏
- この人に聞く…………… 2
六ツ美悠紀斎田保存会副会長
加藤 祐幸氏
- 羅 針 盤 …………… 2
大樹寺小学校長 田中 俊二
- ふれあい…………… 3
井田小 石黒 智康
- 特 集…………… 4
郷土の文化人の
足跡を巡る 東公園
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8
ピオトープ「わくわく小川」
(平成 7 年)
- この本を…………… 8



故郷のよさを伝え続ける

六ツ美悠紀齋田保存会副会長
加藤 祐幸 氏

今年六月七日に、六ツ美悠紀齋田百周年記念事業「お田植えまつり」が開催された。竹矢来(たけやらい)に囲まれた齋田で、早乙女たちが御田植唄に合わせ、腰をかがめて苗を植えていく。

秋篠宮両殿下の後ろに控え、その様子を説明する人がいた。記念事業実行委員として活躍した加藤さんだ。「旧碧海郡の六ツ美町の生まれで、実家は農家でした。工業系の大学に進学した後、市の職員となり、ずっと地元のお世話になってきました。」大学時代、六ツ美支所で開催された青年大学講座に参加したことが、悠紀齋田に携わるきっかけとなった。「もっと地元のことを知りたいな」と思ったんです。悠紀齋田については、



踊りは見たことがあったけれど、内容までは全く知らなかった。講座で改めて学んで、ああ、この六ツ美にはこんなにはすばらしい伝統的な行事があるんだと感動しました。」

その後、悠紀齋田保存会に入り、仲間と一緒に「お田植えまつり」を手伝うようになった。加藤さんが、保存会の中心となって活動し始めたのは、愛知万博のころからだ。

「万博に参加して、悠紀齋田のことを知ってもらおうと呼びかけました。県に委託されているプロモーション会社に直接足を運んで申込書を出し、一生懸命お願いしました。」参加が決定し、大忙しになった。「どんなことをするのか細案を立て、名簿も提出しました。苗だけでなく、シートを使って模造の田んぼを手作りしたんです。そして、決められた時間内に終わられるように、練習を繰り返し何回もやりました。助成費はなく、すべて手弁当で、バス二台を借りて出かけました。」

総勢六十人が参加して、「お田植

えまつり」を再現した。息つく暇もなかったが、やり遂げた後の達成感は大きかった。

「やってよかった。年配の方々が、若かった私たちの発案を受け入れ、応援してくれたことが何よりうれしかったです。六ツ美地区の團結するパワーはすごいと思いました。」

今年百周年を迎えた「お田植えまつり」だが、加藤さんはこう言う。「百周年はただの一つの通過点です。大切なのは、この行事を百五十年、二百年と続けていくことです。」

加藤さんは、講師として小中学校で話すこともある。

「悠紀齋田は、故郷六ツ美の誉れです。延々と伝承してきた先人たちの努力をたたえ、私も次の世代に伝えていきたい。また、私は、体験することが大事だと思うのです。人は同じことを体験しても、それぞれ考え方も感じ方も違います。でも、体験しないと何も始まらない。いろいろなことを体験して感じた後、どうするのか自分で選択すればいい。子供たちには、失敗を恐れず勇気を出して多くの体験をしてほしいのです。」

故郷のよさとともに、人としての生き方も伝える加藤さん。子供たちに向けたその瞳は、強く輝いている。

氏名 かとう ゆうこう
生年月日 昭和三十年七月六日
住 所 岡崎市 中村町



郷土に誇りをもち、

未来を拓く

大樹寺小学校長

田中 俊二

「二十一世紀型能力」「アクティブラーニング」など、新しい時代を生きる上で求められる資質・能力や、そのための具体的な方法などが示されている。山積する課題に対して最適な答えを模索し、持続発展可能な社会の実現に向けて、生きて働く力の育成が求められる。

これらは、今までも重要な視点として意識してきたことである。子供たちにどんな力を身に付けさせるのか。まさに「生きる力」である。そのために「何を」「どのように」教えるか。大切なことは、授業や行事など、日々の学校現場において、それをどう具現化するかである。主体的に取り組もうとする意欲、多様性を尊重する態度、他者と協働するためのリーダーシップやチームワー



対話を繰り返すことで

井田小 石黒 智康

A子の詩は、母親への感謝の思いについて書いた見どころのある作品だった。その詩を、詩の技法や主題について考える六年生の授業の題材として、取り上げようと計画した。そのことをA子に伝えると、「えっ、私の。私の詩で授業をするんですか。」と、表情が硬くなった。

「大丈夫、とてもいい詩だよ。」そう話して、授業の準備を進めた。しかし、授業の直前、「やっぱり、取材ノートはみんなに見せられません。」

A子が困ったように言ってきた。取材ノートには、母への心の葛藤がそのままに書きつづられている。そこが分からないと、意図していた授業を進めることができなくなる。「家での喧嘩のこととか書いてあるし、みんなに言うの、恥ずかしい。」

そこで初めて、私はA子の気持ちを考えないまま、自分の都合優先で授業を構想してきた自分の身勝手さに気付いた。結局、A子の取材ノートは使わずに、授業を行った。

しかし、よい発想をもちながら、自分の思いを表現することに苦手意識をもっているA子に、この機会に自己の内面とじっくり向き合わせたいと願った。もちろん、詩としての力がありながら、未完成となっているものをこのままにしたくもなかった。

その日の授業後から、A子との一対一の対話が始まった。

「お母さん、どんな顔をしていたの。それを見て、A子はどう思ったの。そのときの音や景色も思い出して。」

私の問いかけに、A子は宙を仰いで一生懸命に、そのときのことを思い出そうとした。そのことにより、少しずつ取材ノートは深まり、広がっていった。しかし、すぐにA子は、「先生、もう思い出せない。もっと詳しくしなくちゃだめなんですか」と、自分の心を見つめ直し、言葉にすることに苦しむ様子であった。

「読む人に自分の言いたいことを伝えられるものにするには必要なことなんだよ。せっかくお母さんにA子の思いを伝える詩なんだから、いいものにしよう。」

とA子を励まし、対話を続けた。A子もそれに応えて、私との対話

に向き合った。

「最後でリズムを変えたくて、こうしてあるけれど、これでいいのかな。」とA子が私に尋ねてきた。

「短くていいから、もう一言入れられると、さらにいいね。」

私と対話を繰り返して、徐々に詩が書き直された。A子もその変化が分かって手ごたえを感じる様子が見えるようになっていった。

できあがった詩は、「あなたがどんなに悲しくたって」で始まり、最終で「私が悲しい気持ちになったときには」で締めくくられる。それは、母への優しさにあふれ、A子の内面の葛藤を素直に、力のある言葉で表した迫力のあるものとなった。

「先生、できたよ。やっ」と書けた。」ノートを持ってきたA子の顔は、これまでとは違って自信に満ち、「早く読んで」と言っているようだった。



ク、コミュニケーション能力などは、一朝一夕で身につくものではない。日々の地道な取組みの中で培われていくものである。

そのためには、求められる資質・能力に照らし合わせて学校の教育活動を進めていく必要がある。

本校は、家康とゆかりの深い大樹寺の前にあり、その歴史と伝統が学校の文化に根付いている。運動会で披露される野外劇を取り入れた五・六年生の組立体操「家康の自立」。昭和五十九年から脈々と続いている。家康が桶狭間の戦いで大樹寺に敗走し、先祖の墓前で自害しようとしたところを登壇上人に諭され、祖洞和尚に助けられて、大名として自立していくエピソードを、劇と組立体操で表現する。その演技は、大きな感動を生み出す。演じる子供たちから、伝統を受け継ぐ心意気やプライドがあふれ、郷土への誇りが培われている。これは、高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら未来を切り拓く力につながるものと考えている。

運動会の演技一つにも、価値ある成果が実感できる。目の前の子供の実態や、求められる資質・能力などを見据えて、未来を拓く真摯な取組が学校に求められている。

郷土の文化人の足跡を巡る 東公園



▲志賀重昂銅像



▲世尊寺（釈迦堂）



東公園案内図



▲三河男児歌碑

石、この三河地区から再び、国を牽引するリーダーが現れることを期待して詠んだ歌である。

石碑に刻まれた歌は、「汝見ずや段戸の山は五千尺。雲巔天に参はりて終古碧なり」から始まり「三河の男児よ須く奮起すべし」で締めくくられる。国際友好・人種平等を目指した重昂は、薩長藩閥政治に反対の立場であった。当時の世相を嘆



しがしげたか 志賀重昂

1863 ~ 1927

地理学者、評論家
教育者、衆議院議員
康生町出身

公園内には、美術工芸家の藤井達吉歌碑、正岡子規の門下の岡田撫琴句碑、芸術家の近藤孝太郎歌碑がある。

いずれも岡崎出身であり、多くの文化人を輩出している町であることを改めて知らされる。



▲近藤孝太郎歌碑



▲南北亭



▲志賀重昂の墓

南北亭は、昭和4年、当時東京にあった重昂の屋敷から岡崎市が譲り受け、移築した。また、重昂の墓は、昭和5年に建立され、純インド様式「スツーパー(墳墓)」という珍しいものである。

東公園内を散策すると、歌碑や句碑など、郷土の文化人の足跡が至る所に点在していることに気づく。

東公園の歴史は、大正十二年に志賀重昂がインド等の仏跡を巡拝したことをきっかけに始まった。公園内に建立された世尊寺には、重昂の収集した仏像等が祀られている。三河人の活躍を願った重昂の銅像が、展望台に向かう途中に立ち、今も岡崎市民を見守っている。

ステージのある広場から山を登っていくと、昭和四十四年に新堀町から移築された、本多光太郎の生家がある。その勉強部屋を眺めると、「つとめてやむな」を信条に日夜勉学に励んだ光太郎少年の姿が浮かんでくる。

旧本多忠次邸は、平成二十四年に移築、復元された。洋室と和室が混在した和洋折衷の造りとなっている。昭和七年に忠次が設計し、東京に建てたもので、文化庁の登録有形文化財に指定されている。見学をした子供たちは、そのスパニッシュ様式の建築美に感嘆の声を上げる。

岡崎の将来を担う小中学生には、東公園を巡ることを通して、先人の想いを感じてほしい。そして、郷土岡崎を誇りに思う大人となり、新しい時代を創り上げてもらいたい。



▲本多光太郎生家



▲2階内部の光太郎勉強部屋



ほんだこうたろう
本多光太郎

1870 ~ 1954

物理学者、金属工学者
新堀町出身

昭和12年に第1回文化勲章を受章し、母校の矢作南小学校にて、記念講演を行っている。



▲つとめてやむな石碑

尋常小生時代に「鼻たらしの光さん」と呼ばれていた光太郎は、高等小学校に入り一転、学問を志す。東北大学教授となり、磁石鋼であるK5鋼や新K5鋼を発明する。



ほんだただつぐ
本多忠次

1896 ~ 1999

最後の旧岡崎藩主、本多忠直の孫にあたり、戦国時代の数々の戦で活躍した、徳川四天王の一人、本多忠勝の末裔である。



▲家宝を手にする忠次



▲スパニッシュ様式が基調の本多忠次邸



▲1階食堂の見学風景



▲2階浴室

◆平成27年度授業力・教師力アップセミナー【基礎編】

月日	教科・領域	場所	開校式 閉校式
7/30	国語・書写	岡崎市民会館（集会1号室）	9:00 12:10
7/30	社会	天恩寺 万足平 宮崎茶栽培 地域等 んかた会館	9:00 15:00
7/30	算数・数学	竜美丘会館（301号室）	9:15 11:40
7/31	理科	愛宕小学校(理科室)	9:00 12:00
7/31	生活	総合学習センター (教育研究室2)	9:15 11:50
7/30	総合的な学習の時間	総合学習センター (教育研究室2)	9:10 12:00
7/29	音楽	浜松市楽器博物館	9:45 12:20
7/31	図工・美術	おがぎき世界子ども美術博物館 (視聴覚室)	9:30 12:00
7/31	保健体育	井田小学校（体育館）	9:00 12:00
7/30	技術・家庭科	-技術分野-上新石材店	9:30 11:50
7/31	技術・家庭科	-家庭分野- 草木染工房「しかり」	9:30 11:50
7/30	家庭科（小学校）	小豆坂小学校（家庭科室）	8:50 13:00
7/31	英語	南部市民センター分館 (体育集会室)	9:30 12:00
7/31	道徳	総合学習センター (小ホール)	9:15 11:50
7/30	特別支援教育	総合学習センター (小ホール)	9:15 14:00
7/31	学習情報	新香山中学校 (パソコン室)	9:00 16:00
7/31	学校図書館	岡崎市図書館交流プラザ 「りぶら」(会議室302)	9:30 11:40
7/30	学校保健	南部市民センター分館 (体育集会室)	9:30 11:45
7/30	生徒指導 (問題行動)	総合学習センター (教育研究室1)	9:10 11:50
7/31	生徒指導 (不登校)	岡崎市教育相談センター	9:15 11:45

今年度も、夏季休業中に授業力・教師力アップセミナーが開催される。「基礎編」については、左の表のように、二十の研修会が設けられている。

「応用編」は、「岡崎市免許状更新講習」の選択講習と同じ内容で行っている。今年度は、八月五日、六日、七日の三日間

● 授業力・教師力アップセミナー



各教科・領域の基礎的な知識や技能を習得したり、授業を適切に進めたりする力が高まることを目的としている。



▲ H26年度 基礎編 (図工・美術)

にわたり、二十八の講座が設定されている。「応用編」については、開講式の時間は、全て八時五十分である。

● ハートピアだより

一つ一つを乗り越えて

本年度九月より総合センターにハートピア上地を開講する。それに合わせ、これまでの教育相談所内のハートピア岡崎をハートピア竜美と改称する。そして上地と竜美の両ハートピアを合わせてハートピア岡崎とし、新たなスタートを切る。

一学期末現在で三十名が在籍、通所しており、七月十四日に終業の会を終えた。ハートピアのスタートは学校の始業より三・四日ほど遅れてスタートし、早めに終業する。少しでも学期の始まりと終わりに学校へと足を運べるようにと支援をする期間を設けている。一学期での主な活動を紹介する。

通所が始まり暫く経った五月下旬に、在籍校の担当者としてハートピア職員との情報交換会(担任会)を随時実施している。学校と細やかな連携を図り、通所生を支援する。

また、ハートピアでは関わり合いの場を大切にしている。

おがぎき世界子ども美術博物館の造形教室での作品製作



▲ ペン立て作り

や六月の自然体験の森での散策、そして木の枝や実などの自然素材を利用したペン立て作りなどは、創作意欲を掻きたてる格好の活動である。また、七月の七夕会に合わせて、笹飾りに一生懸命に取り組み通所生からは作る喜びを感じることができた。ペーパークラフトの型紙から立体的に作り上げた鳥や飾り提灯は見事である。

このように、通所生は小集団での関わり合いを通して確実に成長している。ハートピアでのホッとする時間を通して自信を取り戻し、学校へと足が向いていくことを願うばかりである。通所生がエネルギーを蓄え、一つ一つを乗り越え、もう大丈夫と一歩を踏み出してくれることを期待し、温かく見守り応援していきたい。

1 内容
 本年度は、ニューポートビーチ市とウッデバラ市と交流をする。それぞれの都市に七名の生徒を派遣する。
2 受入・訪問日程について
 ニューポートビーチ市
 受入 6/30(火)～7/6(月)
 派遣 9/28(月)～10/6(火)
 ウッデバラ市
 受入 10/21(水)～10/28(水)
 派遣 9/28(月)～10/6(火)

* 呼和浩特市について
 鳥インフルエンザ、大気汚染の心配があり、本年度も中止とした。

● 海外都市交流事業

◆平成27年度授業力・教師力アップセミナー【応用編】

【8月5日(水)】		
講習名	会場	講師名
小学校国語科教育	総合学習センター2F 教育研究室2	熊谷 清一
中学校社会科教育	総合学習センター2F 教育研究室3	山内 貴弘
小学校算数科教育	総合学習センター2F 教育研究室1	蜂須賀 渉
中学校理科教育	総合学習センター3F 教材開発室2	山本 則夫
小学校音楽科教育	総合学習センター2F 小ホール	麻場ちとせ
小学校図画工作科教育	子ども美術博物館 視聴覚室	赤崎 類子
小学校体育科教育	根石小学校 体育館・図書室	宇都木靖弘
中学校技術科教育	新香山中学校 木工室・パソコン室	近藤 善紀
中学校英語科教育	総合学習センター3F 教材開発室1	太田 幹也
※健康教育	福岡中学校 図書室	中村 郁夫
【8月6日(木)】		
講習名	会場	講師名
中学校国語科教育	総合学習センター2F 教育研究室3	磯村 彰久
小学校社会科教育	総合学習センター2F 教育研究室2	片桐 徹
中学校数学科教育	総合学習センター3F 教材開発室2	加藤 嘉一
小学校理科教育	総合学習センター2F 教育研究室1	岡 秀之
中学校音楽科教育	上地小学校 図書室	三浦 敦子
中学校美術科教育	教育相談センター3F プレイルーム	安藤 眞樹
中学校保健体育科教育	根石小学校 体育館・図書室	野田 豊
小・中学校家庭科教育	福岡小学校 家庭科室・パソコン室・図書室	荒井 留美
小学校外国語活動	総合学習センター3F 教材開発室1	山本 和代
※保健室と養護教諭(養護教諭対象)	総合学習センター2F 教育研究室4	河合 美保
※幼児教育(幼・小教諭、保育士対象)	総合学習センター2F 小ホール	本間 和代
【8月7日(金)】		
講習名	会場	講師名
道徳教育	総合学習センター3F 教材開発室2	稲垣 祐嗣
特別活動・学級経営	総合学習センター2F 教育研究室3	戸澤 剛
生活科・総合的な学習	総合学習センター2F 教育研究室1	堺 正司
情報教育	井田小学校 パソコン室	森 竜師
※発達障がい児の理解と支援	総合学習センター2F 小ホール	紀平 高之
※生徒指導	総合学習センター2F 教育研究室2	永野 光雄
※保健	総合学習センター3F 教材開発室1	浦野 公一



▲ H27年度 岡崎市派遣団員



▲ ニューポートビーチ市使節団 市長表敬訪問

姉妹都市 ニューポートビーチ市				
団長	翔南中学校長 加藤 政幸	副団長	小豆坂小学校教諭 柴田 泰枝	
団員	南中学校3年 井上 雄太	団員	福岡中学校3年 阿部 智優	
団員	東海中学校3年 彦坂実乃里	団員	河合中学校3年 百合野姫風	
団員	六ツ美中学校3年 足立 炎	団員	矢作北中学校3年 小黒 柚葉	
団員	六ツ美北中学校3年 渡邊 あゆ			
姉妹都市 ウッデバラ市				
団長	岡崎小学校長 増澤 徹	副団長	美川中学校教諭 山崎 留美	
団員	甲山中学校3年 竹内 友祐	団員	竜海中学校3年 森本 聖梧	
団員	葵中学校3年 永井あかり	団員	岩津中学校3年 犬塚 美空	
団員	新香山中学校3年 鈴木 隆矢	団員	竜南中学校3年 平松 佳大	
団員	北中学校3年 吉田 伊吹			

● 表彰

◆第32回NHK杯全日本中学校放送コンテスト愛知県大会
 ○ラジオ番組部門
 最優秀賞 六ツ美中 文芸部
 ○テレビ番組部門
 優秀賞 新香山中 パソコン部
 ○朗読部門
 優良賞 六ツ美中 二段日華里
 ◆第6回メイク・ア・チェンジデー
 文部科学大臣賞 美川中学校

・カ
ツ
ト
北
中
川
口
典
子

ビオトープ「わくわく小川」 (平成7年)

写真提供：緑丘小学校

開校二十周年記念として作られたのが、ビオトープ「わくわく小川」である。「わくわく小川」には菖蒲が植えられ、珍しいカワバタモロコやホトケドジョウ、クロメダカが放流された。子供たちが校内で自然を観察できるように作られた学びの場である。現在は、その北側にウサギ小屋も作られ、委員会活動の一つとして環境を整備している。

岡崎市では、平成二十二年度に発行された『岡崎市環境学習プログラム』により、市内すべての小中学校において、系統的な環境学習が行われている。今後子供たちが探究心をもち、身近な自然と親しみ、学習していける環境を大切にしていきたい。



「ときどき間違われるのですが、本当は、『ゆきさいでん』と読みます。『ゆうき』と言われると、地元の間は怒れちゃうんですよ」と、茶目つ気たっぶりの加藤さん。悠紀斎田のことを話すこの人懐っこい笑顔に、故郷に対する誇りと深い愛情を感じた。百年続いた「お田植えまつり」が、伝承されていくことを心から願う。

とホ

ホースから吹き出す水しぶきに、歓声をあげてはしゃぐ子供たち。夏休みのプール開放は、静かになった学校が再び活気づくひとときである。友達と水中じゃんけんを楽しむ赤帽のちびっ子たち。自由な遊びを通して、水に親しみ、泳ぐ力の基礎を身につける。長い休みならではの体験が、子供たちをまたひと回り成長させてくれる。

葉目



朝顔のカーテン 翔南中

机と座布団が一つ。勉強をつとめてやまない光太郎の部屋である。その部屋を見下ろす位置に重昂の銅像が立っている。重昂は、三河男児歌碑にあるように、三河の地から国を牽引するリーダーの出現を願った。後に国を越え世界をもリードした光太郎の活躍に重昂も満足であろう。東公園で、郷土の文化人の志を感じた。



*池上彰のこれが「世界のルール」だ！
池上 彰
文藝春秋 ￥1,300

心に残った一文

変化に対応するには、変化の底流を知らなければなりません。そのための情報収集と整理する技術が大切です。

刻々と変化する世界の中にいる私たちは、日々様々なニュースを耳にする。その中には理解しがたい事柄もある。例えば、イスラム国の残虐性に驚かされるが、この本を読むことで、彼らの行動の背景にあるものを知ることができる。

この本は現代の時事問題の本質や歴史を理解する重要性、情報を整理する技術に触れることができる一冊である。

- * ポジティブの教科書 武田 双雲 ￥940
 - 主婦の友社
 - * 小さな村のウルトラランナー 大川 卓弥 ￥1,400
 - NHK出版
 - * 感情的にならない本 和田 秀樹 ￥800
 - 新講社
- 下山小 竹内 昭博